

令和 6 年 6 月 10 日現在

機関番号：14501

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)）

研究期間：2018～2023

課題番号：18KK0056

研究課題名（和文）グローバル性労働と人身取引の狭間にあるもの：聞き取りとネットワークの分析から

研究課題名（英文）In between Global Sex Work and Trafficking: from In-depth Interviews and Network Analysis

研究代表者

青山 薫（Aoyama, Kaoru）

神戸大学・国際文化学研究所・教授

研究者番号：70536581

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、日本、タイ、フィリピン、オランダ、フランス、イギリス等の国々で（元）移住セックスワーカーに対するインタビューと参与観察調査を行い、データを収集・分析した。それらの内容のソシオグラム化を通じて、当事国で違法化された労働に従事する人々が公的支援を十分に受けられない一方、国境を越えた同郷人ネットワークが移動および移動後の日常的支援に重要な役割を果たしていることが可視化された。また、これまで独立していた各国の移住性労働研究を連携させることで、受け入れ国の制度や当事者の属性によって条件が著しく異なることと共に、いずれの事例でも国家の規制が当事者の安全を保障していないことが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年の先行研究では、移住セックスワーカーを人身取引の被害者と混同し、かれらを救済することに焦点が集まっているため、かれらの現実にある仕事や生活に対する具体的な分析が不十分であった。しかし、本研究ではそれらを探究することで、どのような条件や社会資源が社会経済的な弱者を作り出し、あるいはそうした脆弱性からの回復力を与えてきたのかを明らかにした。そしてこの研究によって、犯罪化されることで公的サービスや市民社会からの支援を受け難い環境に置かれた性労働に携わる移民とその関係者たちを、過酷な詐欺や強制や搾取から守り、かれらの人権が社会の中で正当に保障される環境を醸成することに寄与することが期待される。

研究成果の概要（英文）：In this study, we collected data through interviews and participatory observations with (former) migrant sex workers and people who experienced trafficking in the sex industry in the following countries: Japan, Thailand, the Philippines, the Netherlands, France, and the United Kingdom. Through creating sociogramms based on the data, it became visible that people engaged in illegalized labor do not receive sufficient official support, while transnational networks of those who share the countries of origin play an important role in daily support during and after migration.

By linking previously independent studies of migrant sex work/trafficking in different countries, it became clear that in none of the cases did state regulations guarantee the safety of the parties involved, along with the fact that conditions differed markedly depending on the work of certain institutions, such as the police, of the receiving country and the characteristics of the parties involved.

研究分野：人文・社会 / ジェンダー

キーワード：移住セックスワーク 人身取引 社会的ネットワーク ソシオグラム

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

研究課題名 グローバル性労働と人身取引の狭間にあるもの:聞き取りとネットワークの分析から (18KK0056)

研究代表者 青山薫

1. 研究開始当初の背景

国境を越える性取引は近年に新しい現象ではない。それを「移住労働の一種」と捉えるか「人身売買」と捉えるかの議論も、少なくとも19世紀半ばからヨーロッパでもアジアでも記録されている。しかし、1980年代後半以降、グローバル化に伴う世界的な格差の拡大、情報・貿易・人の移動の一定の自由化によってこの現象が普遍化し、関係する学術的議論も新しい局面に入っている。この新局面を代表するのが、現象自体とその観察の地理的な広がり、それをグローバル社会に必然的な課題とする認識の広がり、ポスト植民地主義フェミニズム等の影響を受け、当事者の声や視座を組み入れた研究方法の広がり、さらには、質的調査と量的調査を融合するような方法論の広がりであろう。結果として、世界におけるこの課題についての学術的議論の重点は、「移住性労働」か「人身取引」か、という二項対立的なものから、二項の境界線は曖昧で、現実はより多義的であることに移っている。

翻って日本では、まず性労働そのものについて、理論研究は多いが実証研究が非常に少ない。そのうえで、とくに性風俗産業が国際的な反人身取引言説および対策的となった2000年代から、国境を越える性取引の研究は、人身取引の摘発、禁止、加害者処罰および被害者救済という目的を持つものに集中してきた。これを「移住性労働」と捉える観点は失われがちであり、グローバルな性取引をすなわち人身取引と見る一項が突出し、対立項からの反論を誘発するという、多義性にねざした議論が成熟しない状態を招いている。

2. 研究の目的と問

上記の背景を踏まえ本研究では、グローバル化がもたらした国境を越える人の移動を伴う性取引とは何かを、社会史に照らした当事者の経験および仲介者との接触を軸としたネットワークを通して明らかにし、その複雑な実態と広範にわたる影響について検証することを目的とした。そこでは、移住セックスワーカーと性産業への人身取引はまったくかけ離れたものでも一方に還元され同一視されるべきものでもない、という観点から、移住性取引の禁止をめざすのではなく、どのような条件と社会資源があればこれがより安全なものになるのかを問う。

この問いに答えるには、移民としての性的サービスを売ったことのある人たちの具体的な経験に基づいて考察し、また、それらの解釈を通じて、彼女たちの社会的・法的状況と、そこに社会資源が埋め込まれているとも言われる人間関係のネットワークについて明らかにする必要がある。

そして、それらの具体的な経験は個々人はもちろん、国や地域によって大きく異なるものである。そこで本研究では、国際的に様々な地域でデータ収集と分析を行い、それぞれの状況や差異を明らかにしつつ、国境を越えた影響やネットワークの存在とその役割について考究した。

3. 研究の方法

そこで本研究では、日本、タイ、フィリピン、オランダ、フランス、イギリスにおいて、研究者や支援団体および当事者らと協力して、移住セックスワーカー(元ワーカーを含む)と人身取引の被害者/サバイバーに対するインタビューと参与観察調査を行い、データを収集した。そして、それらの半構造化インタビューを基に、Rizza K. Casesが移住研究のために発展させたソシオグラム法を用いて、移民がもつ他者との人間関係を示すエゴセントリックネットワークについての解釈を行なった。

本研究におけるソシオグラムでは、聞き取り調査から得られた情報を基に、エゴ(性取引に携わる移民当事者)を中心とした同心円上に関係する個人や集団、公的機関、市民団体を配置し、それらの相互の関係性が表現される。そこでは主体間のポジティブ/ネガティブな影響が明らかにされると共に、同心円上の距離を通じて各関係の重要性の濃淡が示される。そのネットワークには性取引関係だけでなく性取引以外の関係も含まれ、また、人身取引のような詐欺や強制・暴力や搾取をもたらすような強い負の関係にも注目する。

ソシオグラムの利用が有効な理由はいくつかある。第一に、性取引にかかわる移民など、社会的に脆弱な立場におかれた人びとにとっての聞き取りの困難を軽減させることである。聞き取りの相手が脆弱であればあるほど自分が経験した関係について語る心理的負担は重い。視覚化ツールを通すことによってこれを対象化し負担を軽くすることができる。第二に、やはり移民など、多様な属性をもった対象に聞き取りをする際の「言語の壁」を低くすることができる。移民と移民ではない聞き手との間にはたいていこの壁があり、双方が多国籍で多言語であれば壁は複数になり、第二、第三言語力や通訳の助けを借りても、相互に誤解が生じる可能性が高まる。関係の視覚化は、誤解を明らかにし、乗り越えるための補助になる。第三に、データの解釈の段階での「言葉の壁」も低くする。質的調査を研究者の間でも第一言語が異なる国際共同研究として行う場合、聞き取り後のデータの共有や解釈が翻訳の過程で損なわれるリスクが増す。つまり、ソシオグラムは、聞き取りをする側とされる側の双方が、聞き取りされる側にとって重要な関係

を再帰的にとらえ、確認し、表出するためにとくに役立つのである。また、解釈を進めると、この図に表れないさほど重要でない関係が何かを把握することができ、聞き取りを補強できる。

4. 研究成果

本研究では、各地の研究者や NGO、当事者らと協力することで、合計 60 人の移住ワーカーと人身取引被害者あるいはサバイバーの経験について聞き取りおよび参与観察調査をすることができた。また、国際的な共同研究や学会報告、イベントの開催などを通じて、それぞれの地域の研究者や支援団体、当事者などだけでなく、ルーマニアなどより広い地域での調査を可能にするネットワークを得ることができた。これらの広範な聞き取り調査と分析・解釈によって、次のとおりの重要な知見が得られた。

移住セックスワーカーは多様であるが、受け入れ国によって当事者の状況は著しく異なる。受入国内の集団間でも、とくに出身国とエスニシティおよび滞在資格によって著しく異なる。ネットワークの多様性が移民の脆弱性に影響する。

パレルモ議定書における人身取引の手段（詐欺、強制、暴力、脆弱性に乘ずるなど）と目的（搾取）を明確に示す例は少数であった。

これら 4 点をより詳しく説明する鍵が、ソシオグラム解釈によって絞られた以下の 5 項目である。以下、ふたたび各項目に沿って、性取引に携わる移民を社会経済的に弱い立場に追いやり、そうした脆弱性から回復させたりする条件とネットワークを特定するという本研究の目的の範囲の結論を述べる。

- 1) NGO/NPO など市民団体は、移民がネットワークを広げるのに好ましいアクセスポイントであり、これらとの関係があれば、性取引や移住のネットワークを超えてより多くの支援を求めることができる。市民団体が当事者コミュニティを中心に設立され、偏見をもつことなく危害軽減アプローチを採っている場合はとくにそう言える。現状ではこれがない日本に住む移民が性取引以外から資源を得るには、運任せか自助努力でネットワークを広げるしかない。調査地の一つであるフランスでは、ネットワークを広げる機会が社会的に用意されていることも明らかとなった。
- 2) 第三者（とくに管理者、仲介者、斡旋者）との関係は両義的である。最悪の場合は、移住セックスワーカーの身体的・精神的安全とエンパワメントの阻害要因となる。最善の場合は力になってくれる。「友人」との関係は、文脈によって意味合いが異なる。例えば日本では、「友人」が移住や性取引を仲介することが珍しくなかった。そうした「友人」が出身国にいる場合、その関係はそれほど重要ではない利害関係である。一方、友人が受入国（都市）にいる場合、エスニシティを同じくするワーカー間で見られたが、その関係はより重要で、物質的・精神的な支援を伴い、事実上友情で結ばれた関係となる。典型的な反人身取引の言説では斡旋人が暴力的な管理者であり得るとされる「ボーイフレンド」については、筆者らはそう判断する根拠を見いだせなかった。これらの第三者はすべて移住の不可欠な要素であり、活用次第では、より安全な移住、詐欺的・強制的・暴力的・搾取的でない移住の促進に役立つと考えられた。家族も重要である。移住や性取引への関与は出身国にいる家族が原因であったかもしれない。家族を支えるために仕送りをしなければならない例は珍しくない。日本では、当事者が日本人男性と結婚した場合、いわゆる義理の家族が物質的にも精神的にも重要であった。日本とフランスでの調査においては、家族が威圧的、暴力的、搾取的であるとか、自分の立場を弱くしていると語る者はいなかった。むしろ彼女たちは、経済的に支えることもふくめて、家族とのつながりを生活の糧としていた。こうした重要なつながりを、パレルモ議定書にある移民の脆弱性の源泉だとして否定しても、劣悪な条件下での移住やセックスワーカーが阻止できるとは思われない。
- 3) エスニックコミュニティが全体としてコミュニティ内部のワーカーを差別しようとして、その中のワーカーたちは、多くの場合互いに支え合っている。もっとも、支えと搾取の境界線がはっきりしないこともある。フランスにおけるナイジェリア出身女性のネットワークは極端な例だが、経済的に必要なセックスワーカーのエスニックネットワークが威圧的・搾取的なネットワークになる例である。結びつきの強い閉じたコミュニティは、当事者がより良いネットワークを得ようとする際、障壁になりかねない。仲間同士の支援や学び合い、エンパワメントを重視したコミュニティアプローチによる危害軽減を促し、その上に部外者との信頼関係を構築する手立てが望まれる。
- 4) 警察との関係も両義的である。警察との関係を移住ワーカーは否定的に見ることが多いが、警察は支援者にもなり得る。警察がワーカーに対して懲罰的な人身取引・売春防止策を止め、危害軽減とコミュニティアプローチを組み合わせた倫理的アプローチを顕著にすれば、詐欺や暴力や強制や搾取からワーカーを守ることができる。

- 5) 在留資格は、当事者の法的立場はもちろん、独立性とネットワークの多様性にも影響する。多様なネットワークは豊かな社会資源を内包し、安全性を高める。在留資格が安定し在留期間が長くなるほどネットワークは豊かになるが、定住者資格が得られ、性取引を超えてネットワークが広がるかどうかは、受入国側のネットワーク（労働市場や義家族、保健・福祉サービスなど）とつながる機会があるかどうかによるところが大きい。

いっぽうトランスジェンダーの移住ワーカーは、この点でシスジェンダー当事者より不利な立場におかれている。彼女たちは、ホスト国で結婚して定住する機会が少なく、義家族やセックスワーカー以外の仕事関係につながる機会も限られている。医療ビザを取得できるフランスでも、トランスジェンダーの人々がネットワークを広げられるかどうかは、これを更新して安定的に滞在できるかどうかによる。そして、不利な立場は、エスニシティを同じくするトランス女性のワーカーに強い連帯ネットワークを形成させるが、閉鎖的な強い紐帯は、ここでも性取引の外につながる際の障壁となり得る。

本研究を通じて、人身取引対策をふくむ移住と売春に対する国の規制は、移住ワーカーの保護に役立っていないことも明らかとなった。まず、パレルモ議定書による人身取引被害者の定義

つまり、日仏両国の人身取引対策によって救済され得る被害者は、本研究が対象とした性取引に携わる移民の少数にしかあてはまらなかった。とはいえ、筆者らが聞き取りや会話をした人たちはみな、それぞれ上記5項目の作用に応じて多かれ少なかれ脆弱な立場におかれ、分断されている。そして、過酷な詐欺や強制や搾取は、厳しい規制を盾に脅したり複雑な規制にうまく対処したりできる者が、犯罪化され、市民社会との接触が難しい人の脆弱性を利用することによって起きている。ここにこそ議定書が定義する人身取引が成立しているのである。そこで、警察が移住ワーカーの権利を擁護するためではなく、彼女らを取り締まるために法律を行使するならば、警察との関係は否定的なものになる。彼女らは、在留資格をネットワークの拡大、つまり安全・安心のための資源の確保に使っているが、これは国の入国管理や売春規制とつねに対立する。

性取引に携わる移民の状況をより安全なものにするには、セックスワーカーに対して部外者が危害軽減とコミュニティアプローチからなる倫理的アプローチを採用すること、そのためにも、国家が移民による売春を非犯罪化することが進むべき方向ではないだろうか。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 中村文子、藤井広重、佐藤史郎	4. 巻 59
2. 論文標題 巻頭言：人権侵害から考える平和の課題	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 平和研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 大野聖良	4. 巻 29
2. 論文標題 「日本の招聘業界からみる在留資格「興行」をめぐる言説編成 業界機関誌『入国ジャーナル』を中心に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 移民研究年報	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 大野聖良	4. 巻 vol.18
2. 論文標題 日比NGOによる移住女性とJFC支援の歴史とその意義に関する一考察：DAMNとJFCネットワークの機関誌を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際ジェンダー学会誌	6. 最初と最後の頁 125 - 145
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 中村文子	4. 巻 vol.280
2. 論文標題 何が人身売買を生み出すのか？	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 -Synodos	6. 最初と最後の頁 125-156
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大野聖良	4. 巻 12
2. 論文標題 入国管理行政における在留資格「興行」の言説編成 1980・1990年代の「国際人流」を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 理論と動態	6. 最初と最後の頁 153-179
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小ヶ谷千穂、大野聖良、原めぐみ	4. 巻 55
2. 論文標題 日比間の人の移動における支援組織の役割：移住女性とJFCの経験に着目して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 フェリス女学院大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 27-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakamura, Ayako	4. 巻 71/71
2. 論文標題 Reluctant Regionalism: The Diffusion of Anti-Trafficking Norms and Cooperation in Northeast Asia	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Journal of Law and Politics, Yamagata University Law Association	6. 最初と最後の頁 135-166
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青山薫	4. 巻 4月号
2. 論文標題 移住セックスワーカー」に対する暴力を防ぐには	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現代思想 特集：新移民時代	6. 最初と最後の頁 83-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青山薫	4. 巻 3
2. 論文標題 UK質的データアーカイブの設立経緯とその後	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立命館生存学研究	6. 最初と最後の頁 97-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青山薫	4. 巻 87
2. 論文標題 なぜ、ラディカル・フェミニズムは分かってくれないのか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ピープルス・プラン	6. 最初と最後の頁 84-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青山薫	4. 巻 4月号
2. 論文標題 「移住セックスワーカー」に対する暴力を防ぐには	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現代思想 特集 = 新移民時代	6. 最初と最後の頁 83-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計19件 (うち招待講演 14件 / うち国際学会 11件)

1. 発表者名 青山 薫
2. 発表標題 氾濫する性風俗言説・表象をどう読み解くか
3. 学会等名 学習院大学 身体表象文化学会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kaou Aoyama
2. 発表標題 Sexual Minority Politics in Japan (in the World)
3. 学会等名 IGS Seminar, Institute for Gender Studies, Ochanomizu University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kaou Aoyama
2. 発表標題 Research on Migrant Sex Work: Examples of Network Analysis from France and Japan
3. 学会等名 The 6th MMC Regional Conference, From new normal to the next normal: Migration research and policy in the changing world (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kaou Aoyama
2. 発表標題 Roundtable 3: Post COVID-19 Era and the Emerging Issues in Migration Research and Policies
3. 学会等名 The 6th MMC Regional Conference, From new normal to the next normal: Migration research and policy in the changing world (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kaou Aoyama
2. 発表標題 Reading of an Opinion Paper to the Lowsuite on Sustainability Subsidy
3. 学会等名 Faculty of Asian and Middle Eastern Studies, University of Cambridge (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kaou Aoyama
2. 発表標題 Sex work and Migration: Research on Narratives and Networks from Thailand, The Netherlands, Japan and France
3. 学会等名 Sex work and Migration: Research on Narratives and Networks, Colloque, Science P0 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 ONO, Sera
2. 発表標題 Changes in Trafficking in Persons in Japan and the Post-pandemic Situation: Focusing on Trafficking in Persons Annual Report
3. 学会等名 Psychology from The East, Psychology from The West International Conference 2022 by Faculty of Psychology Universitas Indonesia & the Asian Association of Women 's Studies (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 青山 薫
2. 発表標題 日本における移民難民問題 「外国人」が暮らしやすい社会のどこが良いのか
3. 学会等名 神戸大学国際文化学研究所 第21回公開講座
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Aoyama, Kaoru
2. 発表標題 Sex Workers and the Right Approach II
3. 学会等名 Intersections: Global Dialogue on Gender, Development & Social Justice, Gender and Development Studies Program, Asian Institute of Technology, Thailand (Online) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 青山 薫
2. 発表標題 性別二元論批判 東南アジアを鏡に
3. 学会等名 日本ラテンアメリカ研究会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Aoyama, Kaoru
2. 発表標題 'Sex Workers and the Right Approach: the International Legal Framework'
3. 学会等名 Intersections: Global Dialogue on Gender, Development & Social Justice, Gender and Development Studies Program, Asian Institute of Technology, Thailand (Online) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Aoyama, Kaoru with Shrage, Laurie and Friedman, David
2. 発表標題 'Sex Marriage and Other Contracts'
3. 学会等名 Podcast production of the Lion's Share, PPE Society, King's College, London, UK (Online) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 熊田陽子
2. 発表標題 性風俗世界から二元論を考える
3. 学会等名 立教大学異文化コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科 『こっち、あっちの人類学』 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大野聖良
2. 発表標題 日比間の人の移動における支援組織の役割(2) : NGO DAWNによる在留資格「興行」の問題化に着目して
3. 学会等名 移民政策学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ono, Sara
2. 発表標題 Between Human Trafficking and Migration: Dislocation and Solidarity among Migrant Filipina Women, Japanese Filipino Children, and NGOs
3. 学会等名 28th International Association for Feminist Economics Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Aoyama, Kaoru
2. 発表標題 Same-sex Marriage/Partnership at the backdrop of Post-modern Japanese Family
3. 学会等名 University of Tennessee Summer School Program in Japan (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 青山薫
2. 発表標題 性と合意について
3. 学会等名 京都精華大学・社会連携センター「芸術実践と人権」講座(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 青山薫
2. 発表標題 ジェンダーとセクシュアリティ
3. 学会等名 ベトナム国家社会大学ハノイ校日本文化学科招聘講義(4日間)(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 青山薫
2. 発表標題 なぜラディカルフェミニズムは分かってくれないのか...
3. 学会等名 ピープルズ・プラン研究所 シンポジウム「私たちは、どのような分岐点に立っているのか」(招待講演)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計14件

1. 著者名 伊藤 泰郎, 崔 博憲, 四方 久寛, 飯田 悠哉, 北川 由紀彦, 川越 道子, 中田 英樹, 吉田 舞, 坂梨 健太, 青山 薫, 西澤 晃彦	4. 発行年 2021年
2. 出版社 松籟社	5. 総ページ数 448
3. 書名 日本で働くー外国人労働者の視点から	

1. 著者名 日下 渉, 伊賀 司, 青山 薫, 田村 慶子, 今村 真央, 坂川直也, 岡本 正明, 宮脇 聡史, 日向 伸介, 小田なら, 大村 優介, 小島 敬裕, 新ヶ江章友, 初鹿野 直美, 北村 由美	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 392
3. 書名 東南アジアと「LGBT」の政治 性的少数者をめぐって何が争われているのか	

1. 著者名 佐藤史郎, 石坂晋哉, 松尾瑞穂, 佐藤奈穂, 菅野美佐子, 岩佐光広, 茶谷智之, 山本達也, , 細田尚美, 中村文子, 木村真希子, 舟橋健太, ほか23名	4. 発行年 2022年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 500
3. 書名 現代アジアをつかむ	

1. 著者名 Jeanett Bjnness, Lorraine Nencel, May-Len Skilbrei, Lynzi Armstrong, Getnet Tadele, Ida Sabelis, Erin Sanders-McDonagh, Marie-Louise Janssen, Christian Groes, Marlen S. Löffler, Susan Dewey, Treena Orchard, Christina Parreira, Yoko Kumada,	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 226
3. 書名 Reconfiguring Stigma in Studies of Sex for Sale	

1. 著者名 石井美保, 岩谷彩子, 金谷美和, 河西瑛里子, 山本達也, 熊田陽子, 川村清志, 砂川秀樹, 深海菊絵, 田中雅一, 濱野千尋	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ナカニシヤ書店	5. 総ページ数 296
3. 書名 官能の人類学 感覚論的転回を超えて	

1. 著者名 Holca, Irina, Tamas, Carmen S., Kumada, Yoko et.al	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Lexington Books	5. 総ページ数 299
3. 書名 Forms of the Body in Contemporary Japanese Society, Literature, and Culture	

1. 著者名 小田亮、熊田陽子、阿部朋恒	4. 発行年 2020年
2. 出版社 弘文堂	5. 総ページ数 272
3. 書名 スマイルズという会社を人類学するー「全体的な個人」がつなく組織のあり方	

1. 著者名 日下渉、青山薫、伊賀司、田村慶子ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 388
3. 書名 東南アジアと「LGBT」の政治 性的少数者をめぐって何が争われているのか	

1. 著者名 宇都宮京子、西澤晃彦、青山薫ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 208
3. 書名 よくわかる社会学 第3版	

1. 著者名 伊藤泰郎、崔博憲、四方久寛、飯田悠哉、北川由紀彦、川越道子、中田英樹、青山薫ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 松籟社	5. 総ページ数 448
3. 書名 日本で働くー外国人労働者の視点から	

1. 著者名 小泉康一、中村文子、ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 慶応大学出版会	5. 総ページ数 388
3. 書名 難民」をどう捉えるか 難民・強制移動研究の理論と方法	

1. 著者名 岡井崇之、熊田陽子、ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 244
3. 書名 アーバンカルチャーズ 誘惑する都市文化、記憶する都市文化	

1. 著者名 Dewey, Susan, Crowhurst, Isabel, Izugbara, Chimaraoke, Aoyama, Kaoru et.al	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 620
3. 書名 Routledge International Handbook of Sex Industry Research	

1. 著者名 Susan Dewey, Isabel Crowhurst, Chimaraoke Izugbara (eds.), Kaoru Aoyama and 85 others	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 620
3. 書名 Routledge International Handbook of Sex Industry Research	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中村 文子 (Nakamura Ayako) (80555243)	山形大学・人文社会科学部・准教授 (11501)	
研究分担者	熊田 陽子 (Kumada Yoko) (60830346)	国際ファッション専門職大学・国際ファッション学部・講師 (32828)	
研究分担者	大野 聖良 (Sera Ono) (20725915)	神戸大学・国際文化学研究科・特別研究員(RPD) (14501)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計6件

国際研究集会 The 6th MMC Regional Conference, From new normal to the next normal: Migration research and policy in the changing world, Mahidol University, Thailand	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 Sex work and Migration: Research on Narratives and Networks, Colloque, Science PO, Paris, France	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 Network analysis theory and practice work shop at University of Cambridge	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 European and Asia Sex-related migration research presentations at University of Essex	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Exchange of ideas with Sussex Migration Research Centre at University of Sussex	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Research proceedings in Asia and in-puts from the Japan's sex industry at Kobe University	開催年 2019年～2019年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関